



社会福祉法人 薄光会 広報紙

HAKUKOUKAI



志駒もみじロード（撮影：小柴事務局長）

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成17年12月10日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、豊岡光生園：〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1

三 芳 光 陽 園：〒294-0825 千葉県安房郡三芳村上堀 280

鴨川ひかり学園：〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

湊 ひ か り 学 園：〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

Tel 0439-68-1711

0470-36-3211

04-7099-3311

0439-70-6551(デイ)

0439-70-6552(通所)

～風と語ろう～

保護者への情報誌「ついでに」より転載

豊岡光生園の専用水道設備の水源である沢が、長雨や台風のために荒れる。土砂がごろごろ流れてきて貯水池をきれいに埋めてしまっている。こうなると、水が確保できなくなる。その都度、貯水池を掘り上げなければならぬ。

沢の上流の山のでっぺんあたりの木が伐採されてから、ひどくなった。少しの雨でも貯水池は埋まる。砂防ダムのようなバリケードを作ったが、もともと土の塊なので簡単に水に浮いて乗り越えてしまう。最近、金網を張って水だけ通す工夫をした。さて、どうなるか。今日も、福島さん、大野さん、加藤主幹が貯水池の土砂と格闘をする。

感謝

森深き 沢のしづきを 身に浴びて

いのちの水を 守る人あり

(つ)



今日も園周囲のどこかから

草刈機の音が響きます。

散歩に行った利用者の声が

戸原原ダムの湖面にこだまします。

近所の人が通りすがりに挨拶します。

「こんにちは。いいお天気で」

八百屋さんの車が

クラクションを鳴らして

やってきます。

職員と利用者の笑い声が

そちこちに賑やかです。

今日も大空に舞うトンビの

ひゆるーんという声が聞こえます。

園庭にはたくさんの赤とんぼの大群の

かすかな、かすかな 羽音。

とじとじに 不安悲しみ 深くつ

いよよ いとじき

いのちなりけり

(つ)



障害者自立支援法成立後のわ

が利用者達はどのような生活を

送ることが出来るのだろうか。職

員達のこれまでの熱意はむくわ

れるのか。そして職員の生活は守

れるのか。保護者の方々の不安は

ぬぐえるのだろうか。何としても

乗り越えていかねばならない険

しい山である。

岡本かの子の小説『老妓抄』の

末尾にこのような短歌があった

と記憶している。

『とじとじに

我が悲しみは深くつ

いよよ

華や

いのちなりけり』

『餃子の町 宇都宮へ行く』

「結婚してグループホームを利用しているんです。でもまだ避妊はしてもしらってるんですけど・・・。」
「水産加工の仕事をして十万余りの稼いでくるんです。みんなで一杯やりに行ったりしてね。」
北海道から来た施設職員は、「まだまだですよ。」と言いながらそう話していました。

十月十八・十九日の二日間、第十四回全国グループホーム研修会が開かれました。全国から施設職員やグループホーム以降GHと記しますの世話人が集まり、GHの必要性を熱く熱く語っていました。

まずGHの説明をすると、GHは施設ではありません。四人〜七人程度のグループで、一戸建てやアパートなどで生活をする「住居」のことを言います。そこには世話人と呼ばれる人がいて、食事の準備や身の回りの手伝いをしてくれます。施設よりも、より家庭的なところと想って下さい。親元を離れて生活をすることに不安を感じることもあれば、むしろ自分たちの力で、「自立」などという言葉では語り尽くせない喜びや悲しみが日々繰り返される「自分の暮らし」を作って行くのです。

自宅が一番居心地が良いというのは当然ですが、色々な事情で家を出なければならぬそんな時の行き先が「入所施設」だけでは寂しすぎるかと考えるのは、私だけでしょうか。

新法では、GHに次いでケアホームも制度化され、重度、最重度の方の暮らしの場の選択肢が増えました。さあ、みなさん。GHが制度化されて十七年。親亡き後の安心の場だけではなく、利用する本人の幸せを、あたりまえと言われる暮らしを、そろそろ一緒に考えてみませんか。

研修が終わり、立ち寄った餃子専門店「幸福(シラフ)」。安くて美味しい熱々の餃子は、私を幸せな気持ちにしてくれました。



井上利昭

『運動会のヒーロー』

今年の四月から私が担当になった尾澤章雄さん。章雄さんはどんな活動でも楽しみ方を知っている方です。散歩に出かけると女性利用者ご手を繋いでリードしてくれますし、作業の農耕班では彼の操る耕運機が畑を疾駆します。そうかと思つと器用に食材を混ぜ合わせ、お菓子作りに精を出したりします。

そんな章雄さんが楽しみにしている行事があります。運動会です。

今年も十月十五日に運動会が行われました。当日が迫るにつれて利用者は練習に励むことになりました。章雄さんも運動会が近づくと熱心に練習を始めました。章雄さんには目指すものがありました。今年からの種目となった三十メートル走に、誰にも負けられないという気合で毎日一生懸命に走るのです。しかし、強敵がいたのです。

その名は土井淳史さん。淳史さんは早い！記録でもなかなか勝てない章雄さんでした。章雄さんの顔はなかなか晴れませんでした。

運動会当日、皆が大注目の三十メートル走。よいドン。

結果は三秒五二の大記録で赤いはちまきをした章雄さんが堂々の一位。

学園の掲示板に章雄さんのもつてもよい笑顔の写真と記録がかでかと貼りだされました。章雄さんの頑張りも記録も写真の笑顔も素晴らしいものがありました。当の本人も度々その写真を見てニヤニヤ思い出したように笑っています。章雄さん、本当によかったですね！おめでとう！（白組の団長の私としては喜んでよいものか・・・悠（う））

この日以来、運動会にボランティアで来てくれていた小学生達は章雄さんのことをこう呼んでいる。

「スーパーおじいちゃんー！」

・・・せめて

「おじさん」にしてくれないだろうか・・・(苦笑)

小原優子



園だより

四時から男



最近事務所で仕事をしているところからともなく誰かの視線を感じることはありません。しかも決まって夕方四時。その日もまた同じ視線を感じ、「今日こそは」とその視線の先を突き止めるべく事務所の中を調べました。そしてついに見え！事務所の扉のハート型にくりぬいてある窓から覗いている一人の利用者。目が合うと照れくさそうに事務所の扉を開けたのは小川さんでした。小川さんはそのまま応接ソファに腰をかけてベットメイクの時間までくつろいでいました。

それからというものの小川さんは毎日四時になると事務所に来るようになりました。しかし、小川さんはただ遊びに来ているのではなく、小川さんはしっかりと事務所の業務を手伝ってくれているのです。ある時は扉が半開きだったりすると立ち上がり扉をきちんと閉めて「閉めました。」と報告し、またある時は私が金庫の前に立つと背後からサッと現れ金庫を開けて「開けました。」と報告。業務の基本「報・連・相」はバッチリ。またある時はハエが飛んでいるのを誰よりも早く発見し、「虫ー！虫ー！」と叫びながらハエたたきで退治します。しかもこれが私よりも腕がいいの



です。

そんな小川さん、人に対する気配りも忘れません。まだ残暑が厳しかったころの話です。小川さんはどこからともなくタオルを集めてくるのが得意でいつも手にタオルを持っています。私が暑くて汗をかいているとそのタオルで額の汗を拭ってくれました。(たまにタオルではなく雑巾だったりしますが…汗)

そんな小川さんのやさしさや気配りに触れて私も、もっともっと人に思いやりを持たなくてはと改めて学びました。四時から男の小川さん、これからも、もっともっといろんなことを教えてください。

事務員 幾野

ハロウィン



十月三十日午後、ハロウィンが行われました。職員は、何日も前から園内を飾ったり、利用者の衣装の準備におわっていました。

当日、園内はハロウィンの雰囲気満載に飾られ、数名の利用者は、ハロウィンには欠かせない仮装をしました。それぞれ個性的な衣装で、骸骨に変装した一樹さんや、アニメキャラクターになったまち子さんを先頭に、『お菓子をくれないと悪戯しちゃうぞ！』

と言いながら、事務所・洗濯場・厨房へ出発！見ている私たちを楽しませてくれました。

お菓子選びにも個性がいろいろで、大きさを選ぶ人、袋に描かれている絵を真剣に見て、こだわりの一品を手にする人といました。中には、とりあえず手のひらいっぱい握って持っていかうと



する人もいて、「だめ〜返して〜」と職員に言われていました。

みなさん、思い思いのお菓子を運びとてご満悦な表情でした。しかし、お菓子をもらう前に、みんなの波に吞まれて退室してしまい、後からゆっくりお菓子を選んでいる人もいました。そして、おやつ時間にみんなで頂きました。

そんなこんなで、今年のハロウィンも無事終了を迎えたその時でした。

職員室から「きゃ〜」と言う悲鳴が聞こえてきました。なんと、骸骨さんが職員室を襲撃していたのです。よく見るとその後姿は、さっきまで変装していた一樹さんではなく、多田主任ではありませんか！驚く職員を見てとても喜んでいましたが、こともあろうに多田主任あてに一本の電話が…。なんともおかしな姿で電話に出ている多田主任を、今度は驚かされた職員たちがカメラで撮影して反撃を開始したので

す。



(遊んでんじゃね〜つつの。

この非常時に！園長)

事務員 大塚

Bさんと奥様の会話

山の神

「そこのテーブルの上のリモコン、とってこない？」

「そのくらい、自分でとりなさいよ。自分で出来ることはやって！」

30分も40分かかることじゃないでしょう！

3分で出来るわよ！ だいたい、甘いわよ。そりゃあ、あなたにとって大事なことなら、なんでもやってあげるわよ。

でも、リモコンは違うでしょう！

人生を左右するわけ？ それが！

とんでもないわよ。わたしも忙しいの！

わたしの人生を、障害にかこつけて

勝手な使い方しないで！

ずるいんだから！ このごろ！」

「△%※☆&○#\$!!.....」

毒性が弱まったエピグラム

豊岡マルティアリス

Aさんとヘルパーの会話

専門的介護

「ちょっとワイシャツのボタン、とめてくれない？」

「自分でやらなきゃダメよ。機能が低下しちゃいますよ。わたし、ご老人たちに対しても自分でやらせるようにしているの。自分でやるべきだわ。」

「わかったこと言わないで！ 30分も40分も時間かけてワイシャツ着てたら日が暮れちゃう。

おれには、これから、やりたいことがあるの！

あんた、自分のいってることが正しいと思っているかもしれないけど、それは、あんたの価値観だろう。

おれの人生、指図しないで！

あんたは、おれのヘルパーなんだよ。」

毒性が強まったエピグラム

豊岡マルティアリス

新職員とつと

「おはようございますー！」

という利用者の元気な挨拶で、私の一日がスタートします。私が初めて光生園を訪れたときも、初対面にもかかわらず笑顔で挨拶し、迎えてくれたのを忘れることは出来ません。この笑顔のすばらしい利用者と過ごし、早いもので二ヶ月がたとうとしています。バス外出・誕生会・変わりゆく季節を感じながらの散歩など、毎日多彩な活動を行っていく中で利用者一人ひとりの才能に驚かされる場面が多々あります。その中でも、『絵』は芸術家並みの色彩と表現力があることに驚きました。

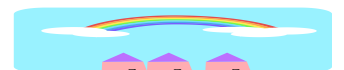
一樹さん：赤・青・黄色…とすべてのクレヨンを使い線を画用紙いっぱい書いていました。虹の世界でしょうか。

濱崎さん：大きな大きなバスの絵。周りには木々も書かれ、みんなで出かけるバス外出が大好きな様子が一目でわかりました。

広田さん：絵の具の筆を持ち、私の問いかけにも心えず、一心不乱に青い絵の具を画用紙いっぱい塗っていました。清々しい青空いっぱい絵が完成しましたが、持ってみると画用紙の真ん中から広田さんの顔が……。一生懸命書きすぎて穴が開いてしまったのか、それとも青空を飛び鳥のような自分を表現したかったのか未だ謎です。

また、人を思いやる暖かさや何事にも一生懸命やる気持ちやたくさん持っています。食事の場面では、言葉はなくても、そっと他の利用者のお皿を取り食事準備をしたり、毎日欠かすことない掃除を一生懸命行い、快適な生活環境を整えてくれます。

今の時代、時間の流れも早く取り残されまいと必至に生活している人が多い中、利用者のように笑顔を絶やさず温かい気持ちを持ち続けられる、そのような支援員になって生きたいと思っています。



『グループユニット』

〜三芳光陽園の新しい風景〜

はつらつ、ゆったり、ほのぼの、四月一日より三芳光陽園では五七名の入所者を三つのグループに分け、グループユニットケアを始めました。

グループユニットといっても、施設の改修、改造はまだ先のこと。四月の時点では食堂をリビングスペースとして三つのグループが共有していましたが、九月からテイサービスのスペースを食堂に移動し、空いたスペースにグループを移動させ、グループユニットとして独立して生活をしていただくような体制へと変更しました。今回は、移動した『ゆったりユニット』の生活の様子を紹介いたします。

その一「私の仕事」

ハルさんは、三芳光陽園に仕事にきていると硬く信じています。今回のグループ移動で洗濯をユニットで行うようになり、入所者が使用するフェイスタオルや口拭き、エプロンの洗濯を率先してやってくれています。職員の手伝いではありません。自分の仕事としてやっているのです。前の職場の社長さんとの約束なのだそうです。

晴れた日に洗濯物を干し終えると満足顔でタバコを一杯。仕事が終わった後の、なんとも清々しい顔が印象的です。これから寒くなってきました。ハルさん、あまり無理しないでくださいね。



その二「食後の風景」

とにかくマイペースな恭子さん。食事を始めるまで色々な手続きが多くて、一番先に配膳しても、自分のペースを崩さず、終わるのはいつも最後。ですが、これを特にせかすでもなく、ゆったりとした時間の中で見られるのが小さなグループの良さでしょうか。食べ終わると、小さなワゴンにトレーを乗せて、長い廊下と一緒に食堂まで押していきました。ゆったりとした時間が流れていきます。

いつしか、ワゴンを押す恭子さんの姿が食後のひとつの風景となりました。職員から掛かる声を気にかけてながらもマイペースでワゴンを押す恭子さん。食堂とリビングの間の長い廊下の往復が一日に三回、少々オーバーしていた体重が減ってきているらしいです。グループユニットのうれしい『おまけ』ですね。

その三「誕生会」

入所者の楽しみのも一つでもある誕生会。誕生者と職員で外出し、ゆったりと食事、その後にはプレゼントを一緒に選ぶという形にしてみました。

どの入所者もメニューやプレゼントを選ぶ表情は真剣そのもの。自分の食べたいもの、気に入った物を選ぶというのにはやはりうれしいようです。

誕生日プレゼントにパールのネックレスを選んだ悦子さん。満面の笑みを浮かべていました。

まだまだ課題はいっぱいありますが、三芳光陽園のグループユニット、試行錯誤中です。

(ユニットリーダー 齋藤理津子)

「はひ、はひ、はひ〜Hitorigoto〜」

ねー、聞いて、聞いて。

老人福祉法って法律があつてさー、第二条に「老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として、かつ、豊富な知識と経験を有する者として敬愛される」とともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障されるものとする」と書いてあるの知ってる？ 今回の介護保険の改正で、今まで保険から出していた食費や居住費が自己負担になったのよ。所得に応じて負担の限度額はあるみただけど、お年寄りの負担増やしてさ、「生きがいを持てる健全で安らかな生活」って、保障できるのかしらね？

改正の趣旨はね、施設と在宅の給付の不均衡をなくすということなんだけど、在宅の給付をふやし、不均衡をなくすっていう議論はあったの？ 確かに不均衡はあるかもしれないけど、施設の給付を下げても自己負担をふやせとっている在宅サービスの受給者ってないんじゃないの？ だって、今の社会って、いずれ自分も施設入所っていう選択肢を検討せざるを得ない社会だって、今のお年寄りたちが一番分かっているんだもの。

その施設もね、介護保険が始まったときは「必要なサービスが受けられる施設を自ら選んで契約する」という話だったけど、東京や横浜の施設じゃ待機者が千人も二千人もいるんだっていうじゃない。一年で十人ずつ入れ替わっても、入れるのは百年後。笑い話にもならないじゃない。施設の報酬や自己負担見直す前に、制度自体見直した方がいいんじゃないの。これで障害者施策と合併したら、ほんとに取り返しがつかなくなるんじゃないのかしらね……。 (オカマ口調のひとことだよ) (KA381ORU)

学園新聞



「素敵な笑顔に囲まれて」

平成十七年四月に開設した児童デイサービスも約半年が経ち、現在、四歳から十二歳までの方々にご利用いただいています。登園の際には、利用者の名前を呼んで挨拶をすると、元気良く返事をして素敵な笑顔を見せてくれます。利用者たちがひかり学園の事を受け入れてくれているようで嬉しく感じられる瞬間です。

学園内での活動時間は、様々な「遊び」を通して、体力の向上や集中力の持続、また簡単な学習まで、利用者個々の能力を引き出す事を目指したカリキュラムを計画し、取り組んでいます。今後はこれまで以上に利用者一人一人に適した活動内容の提供と個別の支援を実施していきたいと思えます。一人ひとりのあるがままを受け入れ、「駄目」と言う前に「こうしてみようよ」と提案しながらサポートしていく、そんな慈しみと褒める支援を心掛けていきたいと思っています。

次号より、学園生活の様子などエピソードを交えながら楽しく紹介させていただきます。どうぞご期待ください。

児童デイサービス担当 能重 学

「学園祭開催！」



見慣れた園庭や園内が、普段よりも一層、華やかです。そう、今日は待ちに待った初めての学園祭です。

料理の並んだテーブルに着くと、利用者は皆、幸せそうな顔をして食事の開始を待っています。普段は少食で、おしとやかなう(チーちゃんも今日、この日はやはり男性陣に負けないパワーを発揮し、料理を味わっています。パクパクと口に食べ物が入るたび、「ちよっと食べ過ぎかなあ?」と心配する私たち職員に、チーちゃんは満面の笑みを返してくれました。この笑顔を見てしまうと、「今日だけはいいかあ」と、不安が吹き飛び、逆に嬉しくさえなってしまうました。

そんな利用者の皆さんのお腹がくらんできた頃、今回の学園祭の見所、聞き所のひとつ、学園歌の合唱の時間となりました。前奏が始まると、利用者の皆さんは今まで練習してきた成果を発揮して、その明るく楽しそうな歌声は園庭に響き渡りました。いつものおとなしい練習とは違い、今日は皆、ステージの上でも下でも大はしゃぎです。また、それを見守る来賓の方々、保護者の皆さんの笑顔……。開始から本当にたくさん笑顔に包まれた学園祭、大成功のうちに幕を閉じました。

「あの利用者のひやしんじゅ」



暑い、暑い夏を前にして、ひかり学園に冷たくい飲み物の自販機が入ったよ。一番喜んだのは僕たちじゃ

なくて、職員の人たちなんだ。でも僕らデイセンターの仲間だって、早速、「買ってもいいの?」と聞きながら、すでにバックから小銭入れを取り出して、買っている人がいたり、「一日頑張ったらジュースを買おう!」なんて自分へのごほうびにしている人がいたり、山間部から来ている人は、買ひ物は週一回来る移動販売を楽しみにしているって言うだけけれど、「ひかり学園に行くと、自販機でジュースが買えるから」って、休まず来るようになったし・・・じゃあ通所のみんなは?というところ、玄関から入ってくるたびに、自販機を指差して大さわぎする人もいるけれど、他の人はあまり興味ないのかな? 素通りして行っちゃうね。だから最近はお茶の時間に、自販機で飲み物を買う事があるんだ。自分でお金を入れて、好きな飲み物を選ぶんだ。好きな物が飲めるから、みんな嬉しそうだよ! 最初はみんな選ぶっていうよりは適当に押してるっていう人が多かったけれど、何回かやっているうちに、上手に押してたね。コーヒーが一番人気だったみたい。デイセンターのみんなは炭酸ものが大好きで、サイダーを買う人ばかりだよ。一気に飲んじゅ人もいてビックリ! でも、おいしそうに飲んでるから、僕も飲みたいな〜。もっといろんな種類の飲み物が増えてほしいよねっ、職員の人たちにお願ひしなきゃ!



鴨川ひかり学園バス外出より

豊岡光生園～植樹祭～



薄光会写真館
各施設の秋をおとどけします。



スポーツの秋～湊ひかり学園運動会～

もみの木の電飾作業始まる



～豊岡光生園～



三芳光陽園産サツマイモ

南 房 総 の 秋

富山町山田の大銀杏



志駒もみじロード



【編集後記】
きらめき第七号をお届けします。
きらめき第六号を、プロの編集者の方に見ていただき、タイトルの付け方、写真やイラスト、余白の使い方等、いろいろとご指摘、ご批評いただきました。プロの目から見たご指摘、ご批評は、今後の編集の参考にさせていただきます。手作りの温かさを感じられる広報紙作りを目指したいと思います。ありがとうございます。

(法人広報委員会)